

学校だより

地域と共に「三世代ふれあい祭り」 久瀬小学校

「自然と人にやさしい心を持ち、仲間と共に進んで実践する子にしたい」これは、久瀬地区の保護者・地域社会の共通した願いです。

この願いを受けて、久瀬小学校では、隣接した久瀬中学校と小中一貫した様々な共通体験活動を実施する中で、子どもたちの豊かな心を育てています。その中で、今年も教科・総合的な学習の時間の成果や取り組みを保護者や地域の方に発表する「三世代ふれあい祭り」を実施しました。久瀬中学校を会場にした久瀬地区文化祭と同日開催でもあるため、久瀬小学校のPTA会員数は44名ですが、今年はその2倍以上の119名もの方に来ていただくことができました。

発表したり交流したりすることを通して、言葉かけの仕方や人との関わり方を学んでいます。

「ふれあい活動Ⅰ」・「ふれあい活動Ⅱ」・「みんなで育てたサツマイモを試食する会」の三部構成で、どの場面でも、交流を深めることができました。

児童会代表児童の進行のもと学年ごとに発表する



「ふれあい活動Ⅰ」は、次のように各学年のアイデアがあふれています。
1年生：国語「大きなかぶ」劇と合奏
2年生：国語「あつたらいいなこんなもの」発表

3年生：三倉太鼓踊り紹介と太鼓踊り
(文化庁事業)披露

4年生：久瀬の昔話「天狗伝説」劇
5年生：桜を育て緑を守る活動発表
6年生：福祉体験活動実演と発表

「ふれあい活動Ⅱ」は、学年展示・体験コーナーです。地域の方の子どもたちへの言葉かけで、ますます張り切って説明する様子が見られました。いつも地域の方が、子どもたちのことを温かく見守ってくださっていることを改めて確認することができました。

「子どもたちの生き生きとした動きに感動した」「いろいろな活動の様子がよくわかり、実際に体験して勉強になった。」など、多くの地域の方からの声が寄せられました。



最後に、PTAの協力で焼いていたいただいた学校のサツマイモを参加者全員でいただき、収穫の喜びを味わいました。

地域の中で温かく見守られて育つ久瀬の子どもたち。今年も久瀬小学校の誇る豊かなふれあい活動になりました。

「誇りの活動」を通した学級づくり 久瀬中学校

「誇りの活動」は、久瀬中学校が学級づくりにおいて最も大切にしている活動の一つです。それは、学級目標を達成するために、自分たちが誇れる活動をつくりだす活動です。5月の「宣言集会」、10月の「中間報告会」、2月の「まとめの会」と全校で交流する会をもち、お互いに学び合い、よい意味での競争意識をもち、より質の高い活動をめざしていきます。

各学級の学級目標は、1年生「なにくそ」、2年生「Do it Step by Step」信頼・自信・進化、3年生「起承転結」絆が深まってこそ結、です。誇りの活動は、1年生「レクリエーション」、2年生「学習」、3年生「班活動」です。

「誇りの活動」に取り組む中でよく問題になることの一つに「仲間にかかわっていくこと」があります。



まわりの仲間を配り、がんばっている姿を大いに認めたり、つまずいている姿を見つけたら優しい言葉をかけて励ましたり、時には厳しい指摘をしたりして共に高まっていく。言葉で言うのは簡単ですが「仲間にかかわる」ということは決して

してやさしいことではありません。子どもたちは、

家に帰れば一人一人が違う環境の中で生活しています。生まれながらそれぞれが違う環境の中で生活してきたのですから、一



人一人の物の考え方や感じ方が違うのはあたり前だと言えるでしょう。そんな一人一人が学校という場で共に生活し、「仲間にかかわる」時、お互いの考えや思いがうまく通じなかったり、すれ違ったり、ぶつかったりするのは当然のことです。でも、そのぶつかり合いの中でお互いの理解が深まり、本物の仲間づくりができます。また、一方では小さいころから同じ仲間の中で過ごしてきた子どもたちは、仲間や自分に対する見方が固定的になりがちです。そしてそのことが時として「仲間にかかわる」ときの障害になることがあります。そういった固定的な見方を乗り越えて仲間にかかわる中で、新しい仲間のよさや自分のよさを見つけることも本物の仲間づくりにつながります。

誇りの活動を通した仲間とのかかわり合いの中で、一年の終わりには一人一人の子どもが自分や学級に自信と誇りを感じることができるよう願っています。